

国際連合食糧農業機関（FAO）「Q&A：鳥インフルエンザについての情報」を公表。

<http://www.fao.org/avianflu/en/qanda.html>

FAO は15 項目からなる「鳥インフルエンザ-Q&A」（2005/11/9）を公表し、その後、病気、公衆安全性、野生動物、ペット・家畜、鳥の死がいを見つけたら、調査・予防・規制、国連組織体制の7項目に整理して詳細な説明を加える改訂を行った。概要は以下のとおり。

（概要仮訳）

## 1. 病気（回答訳省略）

1 鳥インフルエンザとはどんなものか。2 鳥インフルエンザは通常のインフルエンザと同じか。3 HPAI, LPAI, H5N1 の違いはなにか。4 なぜ鳥インフルエンザ H5N1 亜型ウイルスが心配なのか。5 鳥インフルエンザ危機の起源は何か。6 なぜ動物/人の健康問題が早期に再発すると思われるのか。7 どのように鳥インフルエンザは伝播するか。8 鳥インフルエンザの伝播と拡散の違いはあるか。9 家きんの移動はどのような影響を及ぼすか。10 家きんの糞は危険か。11 鳥や動物の糞でウイルスはどのくらい生きているか。12 現在非感染国では高病原性 H5N1 鳥インフルエンザは問題となりうるか。13 鳥インフルエンザはヒトに対して脅威となるか。14 どのようにヒトは鳥インフルエンザに感染するか。15 鳥インフルエンザはインフルエンザパンデミックとなりうるか。16 発生が起きた時は何をすべきか。17 鳥インフルエンザ感染国ではどのような予防策が取られるべきか。

## 2. 公衆安全性

### 1 現在の発生についてなぜ多くの懸念がされるのか。

鳥とヒトインフルエンザウイルスはヒトまたは動物に感染したときに、遺伝物質の交換が可能である。そのことからほとんどの人が免疫を持たない全く新しい亜型ウイルスが生じて、ヒトからヒトへと感染が起こる可能性が生じる。

### 2 鳥インフルエンザは数百万人の命を奪うと聞いているが、本当か。

いいえ。鳥インフルエンザは本来鳥の病気である。ヒトインフルエンザウイルスの近縁種のインフルエンザウイルスによって起こる。家きんや他の鳥類と密な接触をしたヒトに感染するのは稀であり、ある種の鳥インフルエンザウイルスによって起きるのみである。

鳥インフルエンザウイルスが、ヒトに深刻な病気を発症させる新型ウイルスに変異する可能性はある。また今までにない極めて有害なウイルスが出現する危険性もある。しかしながら、ヒトからヒトへ感染を示す証拠となるケースは極めて限られており、今日まで高病原性鳥インフルエンザウイルスがヒトに容易に感染するようになったという証拠はない。

### 3 H5N1 に対するワクチンを接種することはできるか。

現在はできない。ヒトへの使用に安全で効果のあるワクチンの研究は続けられているが、H5N1 インフルエンザ感染に対するヒトの予防ワクチンはない。

### 4 家きんや家きん製品を食べても安全か。

安全である。しかし、予防措置として、食用肉や動物性食品は常に健康な動物からのものであることを確認し、それに従うことである。病鳥や死鳥は食用にはならない

し、動物の餌にしてもいけない。健康な鳥の肉や製品のみを食用とする。

病気が発生していない地域では、家きん肉や製品は H5N1 ウイルスに感染の恐れなく普通に（正しい衛生規範や調理法に則り）調理し食べることが出来る。

H5N1 の集団発生が起きた地域では、家きん肉や家きん製品は、調理段階で適切に加熱し取り扱えば食べても安全である。消費者は家きん肉の全部分が十分に加熱され（ピンク色の部分がない）、卵は適切に加熱されている（黄身が流れない）ことを確認することである。これで、ウイルスのみならず、他の深刻な病原菌を殺菌することができる。

H5N1 ウイルスに感染している地域では、生血や生の孵化卵を飲むなどの慣習は、もし禁止されていないならば、やめるべきである。

保存または使用前に、卵の表面から汚れや排泄物を除くために石鹼と水で洗うことはよいことである。また、ソース、ケーキや他の食材の材料に生卵を使っている場合、常に病原菌の潜在的な感染源となっていることを忘れないことである。

消費者は交差汚染リスクにも気をつけねばならない。調理段階で、生の家きん肉や家きん製品からの肉汁が生食素材に触れたり、混じることが起きてはならない。生の家きん肉や家きん製品を扱う時は、食材の準備時から手をよく洗い、家きん製品が触れる面を殺菌洗浄するべきである。殺菌洗浄には石鹼と熱湯を用いれば十分である。

鳥インフルエンザは加熱された食材から感染することはない。現在まで、適切に加熱調理された家きん肉や製品を食べて人が感染した事実はない。

#### 5 羽を拾ったり、触ったりすることは安全か。

安全である。鳥に触れて鳥インフルエンザに人が感染する可能性は極めて低い。用心のために、子供は羽や鳥の死骸を拾ったり触ったりしないことである。もし子供が HPAI 感染のない地域の鳥に接触した場合は、手を十分に洗ってあげることである。

#### 6 狩猟は安全か。

狩猟者は野鳥の無差別な殺傷や密猟をしてはならない。これは鳥インフルエンザに係わるリスクだけでなく、一般常識として、また狩猟を監督する規制を尊重してのことである。狩猟の際は、特に HPAI が現在発生している地域内では衛生状態に注意を払う必要がある。

さらに、ウイルスの拡散リスクを潜在的に増加させるのを止めることにつながる良い衛生習慣がいくつかある。

- ・ 狩猟協会は、多くの野鳥には病徴が外に現れないことに留意して、野鳥が鳥インフルエンザに感染していることをどのように知るかを会員に伝えるべきである。多数の鳥の死骸が同一の場所やその付近で見つかることが鳥インフルエンザの感染を示す重要なサインである。
- ・ 鳥の死がいには手袋などの適切な保護具なしに触れてはならない。
- ・ 全ての狩猟者は何か疑わしいこと、また多数の鳥の死亡を動物衛生局（又は同等の地域当局）に報告するべきである。これらの当局は分析のため研究機関に死がいの運搬を手配する。

#### 7 野鳥を触って鳥インフルエンザが感染するか。

野鳥から一般人に LPAI や HPAI が感染するリスクは少ない。しかし、野鳥を扱う時は、リスクを最小限にするために、死がいに触れるときは使い捨て保護手袋を着用する、作

業後は手、爪、前腕を石鹸と水で十分に洗うといった、一般的な衛生予防処置をとることを推奨する。

- 8 鳥の死がいを見つけたらどうするべきか。

死がいに触れてはならない。地域の獣医や保健所に届けて、死がい除去を適切な方法で行い、死因特定のための解剖の手続きをしてもらう。

- 9 庭の鳥に餌を与えても大丈夫か。

簡単な一般常識に従って、庭の鳥に給餌するのは安全である。簡単な一般常識とは、野鳥の死がいには触らない、餌箱に餌を補充したり、餌箱を掃除した後は手を洗うなどである。H5N1 の場合のみならず鳥が危険性のある病原体を運ぶため、双方の方法とも奨励される。不明な場合は近くの獣医に相談すること。

- 10 バードウォッチングは安全か。

安全である。野鳥から感染するリスクは極めて低い。しかし、HPAI 症例が出たことがある地域は避けること、またいつものことだが、一般常識と適切な衛生管理に基づき行動することである。野鳥、糞、野鳥のいる水には触れないこと、食べる前、喫煙前、動物に触れた後には手を洗うことである。病気や死んだ動物を拾ってはいけない。

- 11 HPAI が発生している国には旅行は控えるべきか。

発生国に旅行をしてはならない理由はない。しかし、前にあったことだが、養鶏場、鳥市場、その他生鳥がいる場所へ行くことはすべきではない。疑わしい場合は、自国にある訪問国の大使館や領事館で、本国の当局が旅行制限地域を設定しているか相談すること。

- 12 旅行者が自国へ病気を持ち込まないようにするには何をすべきか。

国外にいる場合：

養鶏場、生きた鳥の市場、その他鳥の多く集まる場所など、生鳥に接触するようなどころへは行かないこと。これは HPAI が集団発生したことのある国では最も重要なことである。

もし、鳥インフルエンザウイルスに感染した生鳥に接触したら、ウイルスが衣服、靴、髪についている可能性がある。十分な手洗い、シャワーを浴びる、洗濯、靴に土や堆肥が残らないように洗浄殺菌するという個人レベルの適切な衛生処置をとること。

帰国前：

持ち帰る予定の鳥類や家きん製品が輸入可能であることを自国の動物衛生検疫局で調査する。帰国したら、このような鳥類、家きん製品は全て申告する。

帰宅したら：

HPAI 感染国から帰国後、入浴し衣服と靴を取り替えるまでは養鶏場に行ってはならない。

### 3. 野生動物（回答訳省略）

1 鳥インフルエンザの蔓延に野鳥はどのように関与しているか。2 野鳥から人に鳥インフルエンザは感染するか。3 野鳥が少なくとも H5N1 鳥インフルエンザを伝播することがあるのなら、殺処分は一つの解決法か。4 野鳥が水辺や水上に集まらないように湿地を干上がらせるべきか。5 どのような種類の野鳥が鳥インフルエンザウイルスを運ぶのか。

6 渡り鳥はウイルスを国から国へと運ぶのか。7 他の野生動物は鳥インフルエンザに感染しうるか。8 もし病気が死んでいる野鳥を見つけたらどうするべきか。

#### 4. ペット、家畜

- 1 ネコ、イヌや他のペットは鳥インフルエンザに感染するか。

ネコは鳥インフルエンザに感受性があると思われる。そしてネコでの研究では、H5N1はネコからネコに感染するらしいことがわかっている。感染している、発症している、または死んだニワトリをネコや他の動物に餌として与えないようにする。イヌもまた感染するが、ペット動物の H5N1 に感染する可能性は低い。

- 2 ささまざまな理由（趣味、スポーツ、宗教儀式、文化と歴史、他）で人は鳥を飼っているが、もし何かあったら、どうすべきか。

鳥を飼っている人は、世界規模のリスクにならないように警戒を強めるべきである。鳥を飼っている人は鳥の健康状態に気をつける。もし緊急の事態が始まったら、どのように自分の鳥を隔離するかの計画を開始しておくべきである。地域の動物衛生局（または近くの同等の機関）は適切な方法について助言する準備をするべきである。

- 3 庭で数羽のニワトリを飼っているが、鳥小屋に入れておかなければならないか。

はい。地域で HPAI の大発生があれば、すべての飼い主は家きんを鳥小屋に入れる準備をしなくてはならない。家きんを鳥小屋に入れたり、野鳥から隔離する出来る限りの方法を尽くし、鳥小屋に出入りするときは適切な衛生/バイオセキュリティ手段をとることである。自分の家きんの健康を保持することが飼い主の責任である。もしこの方法が困難で、家きんがまだ元気であれば、敷地内に病気が広まる前に家きんを処理することを考えることもできる。

#### 5. 鳥の死がいを見つけたら（回答訳省略）

1 もし鳥の死がいをみつけたらどうしたらよいか。2 鳥の死がいに触れると危険か。3 鳥からはどんなリスクを受けるか。4 飼っているニワトリの中、または近くに数羽の野鳥の死がいが見つかったらどうするべきか。5 鶏舎の外で飼っている鳥や狩猟用の鳥が死んだ時に報告は必要か。6 ペットが鳥の死がいを食べたり家に運びこんだら、気をつけなくてはならないか。7 家のネコやイヌが鳥の死がいを見つけたが食べてはいない。これは鳥インフルエンザに感染したことになるか。

#### 6. 調査・予防・規制

- 1 家きんの HPAI の症状はどんなものか。

症状の度合いはウイルス型と感染鳥の種類によって異なる。高病原性インフルエンザに感染した鳥は突然死するか、呼吸困難、下痢、頭部膨張、鈍麻、落卵、食欲欠乏などの症状が現れる。ある鳥類、特に水鳥などは無症状のまま低病原性鳥インフルエンザに感染していることがある。

家きんが鳥インフルエンザに感染していると、下記のような症状を現す。

- ・ 脚弱（歩けない、真っ直ぐ立てないなど）
- ・ 羽毛逆立

- ・ 呼吸困難
- ・ 食欲欠乏
- ・ 沈うつ、翼下垂
- ・ 肉冠・肉垂の貧血
- ・ 頭部、眼瞼、肉冠、肉垂、飛節の浮腫、膨張
- ・ 水様下痢便
- ・ 部分出血（脚や脛に現れる）
- ・ 血痰、鼻水漏出
- ・ 急激な産卵率低下
- ・ 軟殻、奇形卵

症状の多くはニューカッスル病でも現れるため、家きんの病気を知るには獣医のアドバイスを求めるべきである。獣医は今後の分析のためにサンプルか鳥数羽を研究所に提出すべきである。

鳥を売ったり、鶏舎や囲いから動かさないことである。もしそれをしたら、病気を他の地域に広めたことで、重い科料かさらに厳しい処分を課せられる。

## 2 動物は病徴が現れる前にウイルスを“排泄”することがあるか。

潜伏期とは感染から病徴の発現までの期間である。“排泄”は、ウイルスについていえば、動物の分泌物や排泄物に他の動物や人に感染を起こすウイルスが含まれていることを意味する。ある種の動物（若鳥など）では急激な病徴を示し、同時にウイルスを排出する。数種の水鳥を含む他の感染動物では、症状の面では健康だが、ウイルスを排出している。多くの種類の動物の鳥インフルエンザウイルスの潜伏期間と排出期間はわかっていない。

## 3 農家や養鶏業者が鳥を保護するために何が出来るか。

HPAI を含めた国境を越える動物感染症のバイオセキュリティを破壊する最も一般的なものの一つは、人が汚染物質や汚染された道具（衣服、靴、交通、木箱、受け皿、餌箱、かご等）感染動物を健康な動物が飼養されている地域に持ち込んだり、感染地域からこれらのものや病気の動物を外へ出すことである。鳥インフルエンザウイルスが鶏舎に侵入するのは3つの主な経路がある：人を介して、用具を介して、動物を介してである。

### 人を介しての汚染防止

- ・ 鶏舎に関係者以外を立ち入らせない。
- ・ 養鶏場に行くときは保護服（長靴を含む）を着用する。
- ・ （消毒室に入る前に有機物を落とすために予備消毒槽を用いる）長靴の殺菌には水槽を使うか、毎回使用後長靴を洗浄する；長靴を鶏舎や敷地外で他の目的で使用してはならない。
- ・ 理想としては養鶏業者や訪問者全員が養鶏場に入る前に全身を洗い、農場で用意した衣服を着る。一度使用したこれらの衣服は農場内に置き放しにしないこと。
- ・ 自己の農場で外部の労働者を使う場合、生産者はこれらの労働者が自分で家きんを飼っていないことを確認する。

- ・ 動物保健担当職員が感染農場を訪れる時は、疫学調査やワクチン接種の作業を通じて、病気の感染を広めてしまうことがあるので特に気をつける。
- ・ 生産者は家きんの餌や水がどこから来ているかを常に知っておくことである；定期的にこれらの品質を調べるべきである。

#### 用具を介しての汚染防止

- ・ 農場に入る前に、使用する全ての道具、器具は消毒する。出るときも同様に行う。
- ・ 木材や繊維などの多孔性の素材は金属やプラスチックなどの素材に比べて殺菌が難しいことを覚えておくこと。

#### 動物を介しての汚染防止

- ・ 農場に入れる鳥は健康であること。可能であれば、健康証明を取得して表示すべきである。
- ・ 健康な鳥のみにワクチンを接種する。
- ・ 新しい鳥を収容する隔離場所を作り、農場に前からいる家きんと接触しないようにする。これらの場所は出来る限り離すようにする。
- ・ 新旧の鳥にはそれぞれ別の労働者を使うこと。もし難しいなら、新しい鳥は後に取り扱う。
- ・ 新しい鳥は前からいる鳥と15～30日間離しておく。
- ・ 養鶏場に野生動物が入らないようにする（囲いをする、ネットを張るなど）。
- ・ 家きんの飼育場や産卵場にネコ、イヌ、ネズミ、害虫が入らないようにする。

#### 4 農家は野鳥が農場に病気を運び込むことをどのように防ぐことができるか。

インフルエンザウイルスの自然宿主である野鳥集団は農家の管理の域を超えている。そのため、養鶏農家や生産者は自己の群にウイルスが入り込まないように厳しいバイオセキュリティ基準を維持していかなくてはならない。

- ・ 家きんは屋内に収容しておく。
- ・ 野鳥がよく来る場所から離しておく。
- ・ 敷地内に野鳥が寄ってくるような鳥の餌箱やアヒル池を作らない。
- ・ 高い衛生基準を保つ。

#### 5 鳥インフルエンザはニューカッスル病と関連があるか。

関連はない。感染鳥は同様な症状や病巣を示すが、鳥インフルエンザはニューカッスル病とは異なるし、全く異なるウイルスによって生じる。

#### 6 鳥インフルエンザウイルスの最も効果的な封じ込め方法は。

鳥インフルエンザウイルスを封じ込める最も効果的な方法は、家きん肉の生産と出荷のサイクルの各段階で適切なバイオセキュリティを行うことである。バイオセキュリティの一つの主要な要素は家きんと野鳥の接触を避けて、家きんに野鳥からウイルスが感染するリスクを減らすことである。これは特に高病原性鳥インフルエンザウイルス亜型の発生を阻止するのに大事である。なぜならば、科学的研究の結果、野鳥によって伝播された低病原性鳥インフルエンザウイルスのうちの何種類かは、養鶏場で高病原性に変異しているからである。

#### 7 病気の拡散を抑えるには何がなされるべきか。

鳥インフルエンザは感染している生鳥が売買されたり、汚れた道具、かご、餌、運搬具、靴や衣服に付いた鳥の糞を通じて拡散する。適正衛生規範（バイオセキュリティ）はそれゆえ飼養鳥への感染を防ぐのに特に重要な安全手段である。

貿易相手の国や地域で HPAI の発生が認められたら、直ちに養鶏業従事者全員が、ウイルスの侵入を防止したり（バイオエクスクルージョン）、家きん群、村、地域にウイルスが入ってしまったらウイルスを閉じ込める（バイオコンテインメント）など、安全衛生規範のレベルをかなり高くするべきである。

ウイルスが入る主な経路は：

- ・ 生きた鳥に付く
- ・ 洗浄殺菌していない動物や鳥のかごなどに付く
- ・ 汚染された餌に付く
- ・ 靴や服を汚染して付く
- ・ 運搬具に付く

ウイルスが地域に残る主な経路は：

- ・ 市場での感染鳥の販売
- ・ 感染家きん農場内に入った野鳥の退去
- ・ 感染鳥を扱ったり、販売する人
- ・ 汚れた靴、衣服、かご等を持って、市場や他の養鶏場や食肉処理場へ行くこと

バイオエクスクルージョンの基本方針は、ウイルスの入り得るさまざまな経路を知り、これらの経路について、リスクのある期間が終わるまで高い警戒レベルを維持することである。

バイオコンテインメントの基本方針は、鶏舎内で感染を閉じ込めてしまい、近隣の鳥群、村、地域のリスクを減らし、感染対応措置をとる当局に協力することである。

#### 8 消毒の最良の方法は何か。

最初は石鹼水と洗剤を選ぶことである。なぜならば鳥インフルエンザウイルスは多くのウイルスに比べて壊れやすいからだ。ウイルスの脂質の外層を破壊する洗剤にはとても弱い。この外層は動物の細胞に入り込むのに必要なものである。ウイルスは水中でもよく生存するので水だけでは不十分であり、単なるすすぎでは他の鳥に感染してしまう場所にウイルスを入れてしまうだけである。

更なる保護には、特に鳥インフルエンザに感染している地域では消毒剤を使うことが勧められる。

殺菌は病原体が人、道具、供給品によって一つの場所から他所へ自動的に拡散していくのを防ぐのに役立つ。現場を離れる前には、再利用できないものを適切に処分し、衣服、長靴、出来る限り全ての用具を殺菌することである。菌が付着している可能性のあるもの、例えば、手術器具、衣服、かご、捕獲道具、乗り物、長靴などが触れた全てのものを殺菌する配慮が取られるべきである。

殺菌と処分が最も困難な有機物の一つが鳥の糞である。ウイルスは湿気のある不潔な場所にいるため、糞と接触したような物品（かご、靴、衣服など）は、家きんの仕事をするときや養鶏場にはいるときには、完全に殺菌することが不可欠である。

#### 9 もし鳥インフルエンザが養鶏場に発生または発生が疑われるときは、養鶏業者を保護す

るためにどのような措置が取られるべきか。

事業主は、感染鳥に接触、またはその可能性がある従業員に、自身と家族を感染からいかに守るかという知識を提供しなくてはならない。予防措置の優先度には下記の事項が求められる。

- ・ 潜在感染鳥の拡散を制限する
- ・ 適切な個人の保護具（手袋、眼鏡、顔マスクなど）を着用する。
- ・ 使用済みの個人の保護服や道具を安全に廃棄する。
- ・ 感染曝露が疑われ、かつ抗ウイルス剤治療が禁忌でない人全員に対して適切な抗ウイルス剤を提供する（疑わしい場合は近くの保健所に相談する）
- ・ 感染リスクがあると思われ、かつワクチンが禁忌でない人すべてに季節性インフルエンザのワクチンを接種する（疑わしい場合は近くの保健所に相談する）
- ・ 感染鳥に暴露した人の健康状態を監視する
- ・ 感染リスクのある人に対して、健康保護と感染拡散防止のための個人の衛生管理についての指導を行う

さらなる情報が必要なら、FAO サイトの「家きんを守る - 人を守る」で相談のこと。

10 鳥インフルエンザの拡散を防ぐにはどうすべきか。

家きんの世話、飼育場所の清掃、使用する道具の手入れを安全規範を用いて行えば、病気の拡散を防ぐことができる。

- ・ 家きんの世話について（細目省略）
- ・ 養鶏場の清掃について（細目省略）
- ・ 使用する道具の手入れ（細目省略）

11 病鳥はどうしたらよいか。

病鳥は群から離し、近くの動物衛生局（又は同等の地域当局）に直ちに届け出る。病鳥を動かしてはならず、動物衛生局員の指示に従う。病鳥を取り扱うときは手袋を着用すること。

12 死鳥はどうしたらよいか。

死がいを置き放しにしてはならない。ビニール袋があれば、それに死がいを入れる。なければ、死がいを群から離し、子供や動物から届かないところにおく。死鳥を取り扱うときは手袋を着用すること。死がいを川、湖、他の水系に投げ込んだり、イヌ、ネコや他の動物に餌として与えてはならない。

死鳥を始末した後、近くの動物衛生局（又は同等の地域当局）に直ちに報告する。死がいの処置は当局に任せ、求められたときのみ手伝う。もし近くに動物衛生局がなければ、市町村役所（市村長、県など）に連絡する。

病気で死んだ鳥を食べたり、他に売ったりしてはならない。

13 死鳥を自分で処分しなくてはならない時はどうすべきか。

死がいを安全に処分するには、焼却又は農場から離れた場所にイヌ、ネコ、他の腐食性動物が近寄れないくらいに深く掘って埋める。羽や他の廃棄物（糞）を焼却又は埋めることを忘れないようにする。

14 病気や死んだ家きんの糞を堆肥に用いてよいか。

圃場に施肥する前に数週間堆肥化するのではなければ、糞は用いないほうがよい。

15 鳥インフルエンザに感染するのを防ぐにはどうするべきか。

最も重要な予防方法は家きんと密な接触を避けることである。何よりも、家きんは人と同じ屋根の下で飼ってはならない。そのほか、家きんを扱う時には保護服（手袋、エプロン、長靴など）を着て、作業後は完全に洗浄するなどの個人の衛生防御手段を全員が取ることである。

大発生した状況では、子供、妊婦は他よりリスクが高くなるので、子供が家きんと遊んだり、家きんの近くにいたり、羽に触ったり拾ったりさせてはならない。子供と妊婦は家きんから離し、卵を集めさせてはならない。

鳥インフルエンザウイルスは水によく生息する、よって池、井戸、他の家きん（または野鳥）が水をのんだり、糞を落としたりしている場所からの水は沸騰させるか他の処理をすることが適当である。同様に、家きん（または野鳥）の飛来する、湖や川などの水場で泳ぐことは避けねばならない。

農場の用具は毎日全部洗浄する。農場で作業や清掃するときは、フェイスマスクで鼻と口を覆う。作業後、靴は戸外で脱ぎ、泥や汚れを落とした後によく洗う。

感染鳥の処理をしなくてはならない時は、

- ・ 清潔な布製フェイスマスクで鼻と口を覆う。
- ・ 作業中に生じる飛沫から眼を守るために、出来れば眼鏡をかける。
- ・ 注意を払い、羽、血液、腸などに触れるのを最小限にする。
- ・ 終了後は十分に手を洗う。
- ・ 処理場は十分に洗浄する。

16 鳥インフルエンザが発生したかわからない地域で、家きんの売買を続けることはできるか。

家きんを販売しないようにとの指示がでていなければ、下記の忠告に従うことで販売を続けることはできる。

- ・ 生産地のわからない鳥は売買しない（信頼できるところから証明されている鳥だけを取り扱う）。
- ・ 病鳥と思われる鳥は売買しない。
- ・ 農場にいる鳥が病気に感染したようであれば、動物衛生当局（または地域の同機関）に届け出る。
- ・ オールイン・オールアウト養鶏方式を試してみる。これは全ての鳥を同時に売却し、一小屋分の新鳥を購入する。この間に鳥小屋、かご、家を洗浄する。
- ・ 家きん移動禁止措置を守る。この結果、病気のコントロールに一役買い、禁止措置の解除につながる。

他に、家きんの販売制限に関して、動物衛生当局（または地域の同機関）から出された助言や指導にも従うべきである。当局に協力することは自身の利益につながる。なぜならば、家きん取引の速やかな再開に役立つからである。例えば、家きん移動禁止措置を守ることは病気のコントロールに一役買うことになり、結果として禁止措置の解除につながる。

17 オールイン・オールアウト養鶏方式とは何か。

簡単に言えば、同時に家きんを全部売って、一群分の新しい家きんを購入することで

ある。

オールイン・オールアウトとは、新しい動物や道具を導入すること、またはブロイラーの成長途中の健康リスクを最小とするために、産肉が始まったら餌のみを与え、その後市場齢に到達したら、全ての鳥を市場や食鳥処理場に出荷することを指す。これにより、作業者は、新しい、感受性の高いひなを導入する前に、清掃、通気、古い餌の除去、施設内の消毒ができる。このサイクルは連続しており、必要な動物衛生処置、餌の配給、搬入、従業員の投入などは決まった時点でなされる。もし病気が群に入り込んでも、オールイン・オールアウトプロセスにより、業務停止期間がほとんどなく、農家や生産者が早期に実施できる導入、除去、洗浄、殺菌の確立されたサイクルを提供することができる。

## 7. 国連組織体制（回答訳省略）

1 HPAI と戦うための国連の組織体制はどのように編成されたか。2 どこで鳥インフルエンザの動物とヒトの相互関連について情報を多く得られるか。

以上